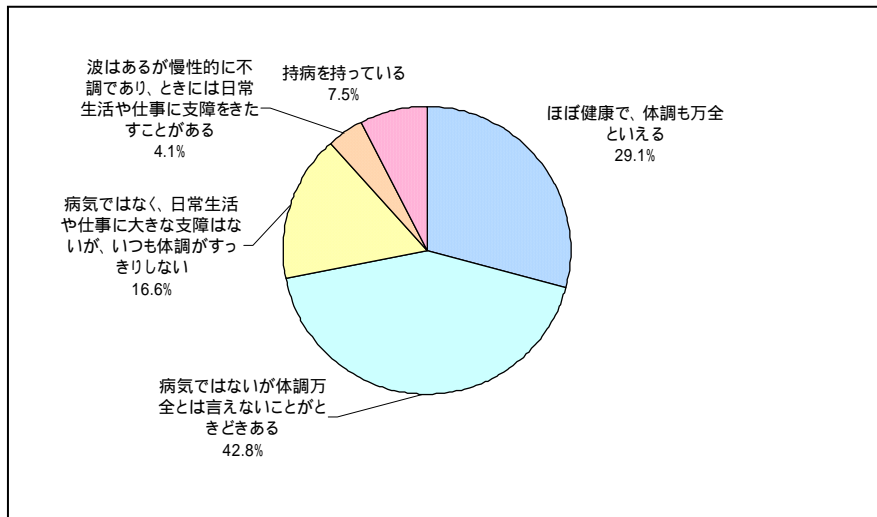


# 調査結果概要

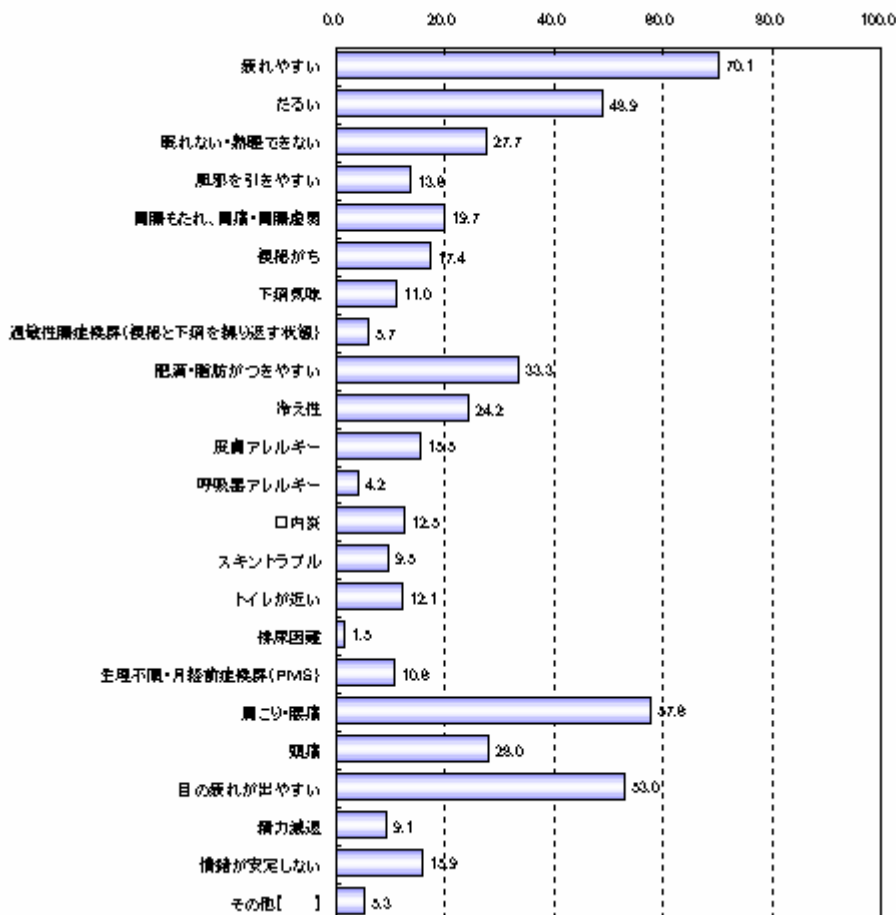
(1)現代人はいつも体調がすっきりしない半健康状態。日常生活に支障はないが体調万全ではない人が約6割も。

体調について聞いたところ、「病気ではないが体調万全とは言えないことが時々ある」、「病気ではなく日常生活や仕事に大きな支障はないが、いつも体調がすっきりしない」と答えた人は合わせて59.4%にものぼり、現代の日本人は病気ではないものの、体調がすっきりしないという「半健康状態」であることが分かりました。具体的には「疲れやすい(70.1%)」、「肩こり・腰痛(57.6%)」、「目の疲れが出やすい(53.0%)」などの他にも、「肥満・脂肪がつきやすい(33.3%)」、「だるい(48.9%)」などがあげられました。

Q.最近のご自分の体調はどうか？以下の中で最も近いものを一つお選び下さい。(n=416)

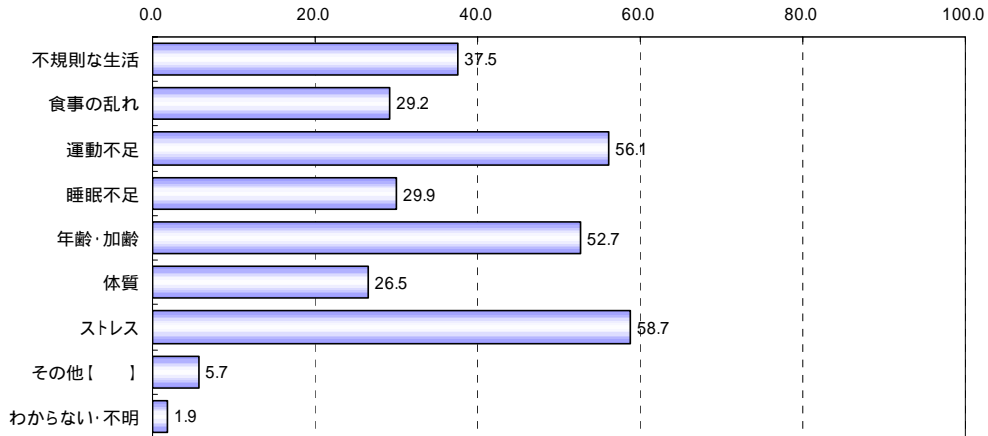


Q.具体的な不調は何ですか？(n=264)

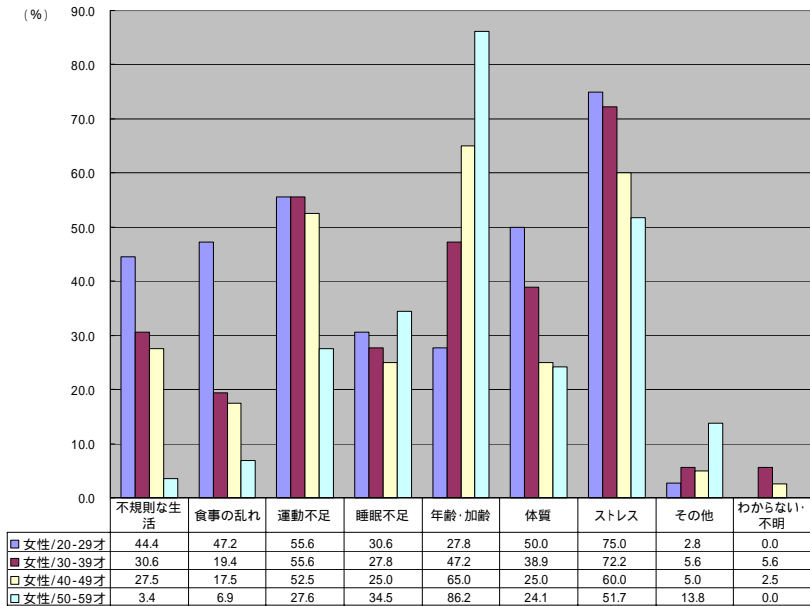


(2)不調の原因は20代女性の50.0%、30代女性の38.9%が「体質」のせいだと思っている。  
 不調の原因については、全体では「ストレス(58.7%)」、「運動不足(56.1%)」、「年齢・加齢(52.7%)」という回答が多かった中、20代女性と30代女性ではその原因を「体質」と考えている人も多くいることがわかりました。(20代女性・50.0%、30代女性・38.9%)

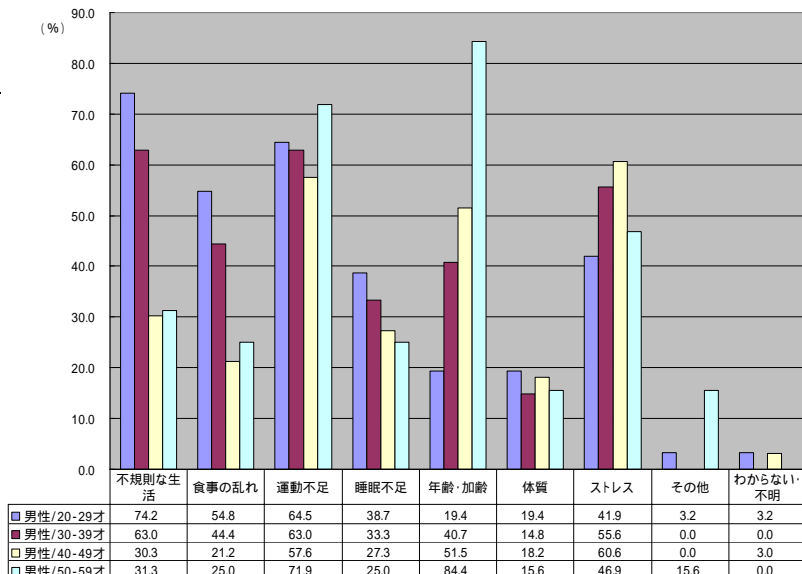
Q.不調の原因は何だと思いますか？(複数回答可/n=264)



女性



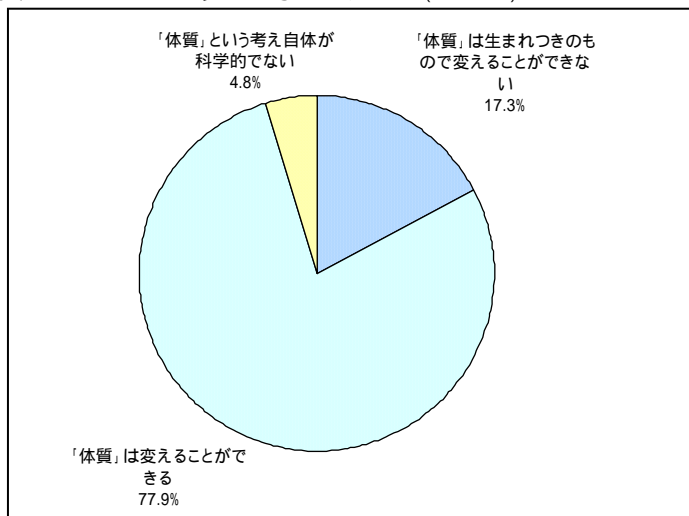
男性



(3)生まれつきだとあきらめず、約8割は「体質を改善できる」と意欲的。

体の不調や病気のなりやすさを「体質」で説明することがありますが、「体質」は生まれつきのもので変えることができない、と考えている人は17.3%にとどまり、約8割の人が「体質は変えることができる」と意欲的にとらえていることがわかりました。

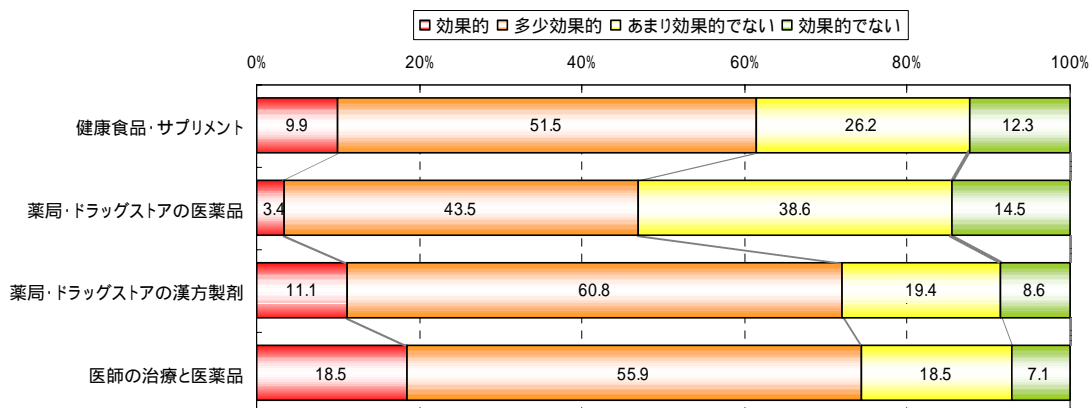
Q. 体の不調や病気のなりやすさを「体質」で説明することがありますが、あなたは体質についてどのようにお考えですか？(N=416)



(4)漢方薬は「体質改善に効果的」と71.9%が認識している。

体の不調を「体質だから」とあきらめている人もいる一方で、漢方薬は「体質から改善できそう」といったイメージを持たれていることが分かります。「効果的」、「多少効果的」と答えた人を合わせると、「健康食品・サプリメント」が61.4%、「薬局・ドラッグストアの医薬品」が46.9%に対し、「薬局・ドラッグストアの漢方製剤」は71.9%と「医師の治療と医薬品(74.4%)」に次ぐ高い数値となっています。対処療法的な市販のOTCに比べ、漢方薬は体質改善に効果がありそうといったイメージをもたれていることがわかります。

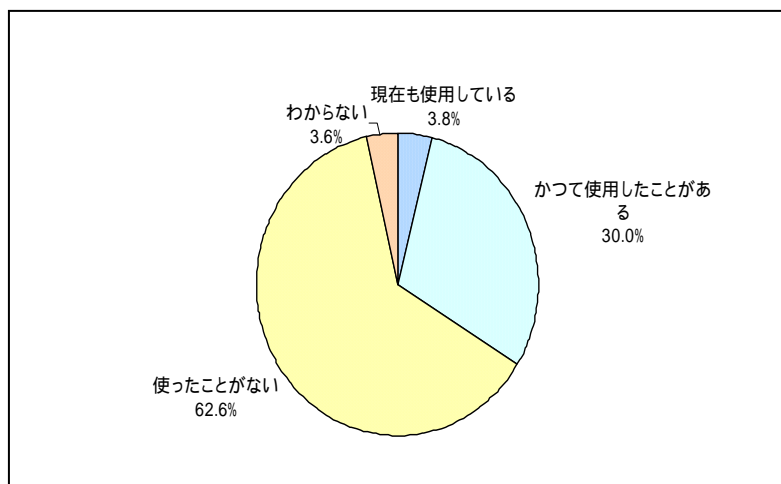
Q. 以下のそれぞれについて、「体質改善」にどの程度効果的だと思いますか？(n=416)



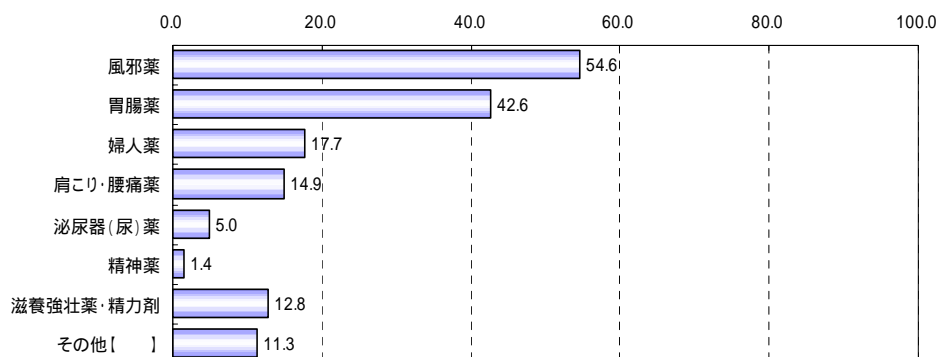
(5) 薬局・ドラッグストアにある「漢方薬」を62.6%の人が使ったことがない。

薬局・ドラッグストアで販売されている漢方製剤の使用経験がある人は約3割にとどまり、「使ったことがない」と答えた人は62.6%でした。使用経験のある漢方製剤は風邪薬(54.6%)、胃腸薬(42.6%)が多く、葛根湯のように特になじみのあるものに対して使用経験が高い様子が伺えます。

Q. 薬局・ドラッグストアの漢方製剤の使用経験はありますか？ (n=416)



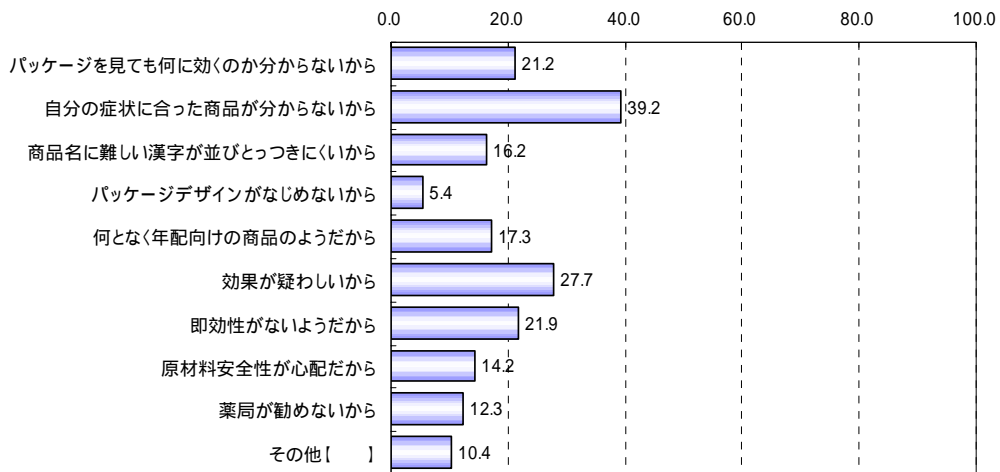
Q. 使用したことのある(使用している)漢方製剤は何ですか？(複数回答可/n=141)



(6)漢方薬を使ったことがない理由は「自分の症状にあった商品が分からない」、「パッケージを見ても何に効くのか分からない」から。

漢方薬を使ったことがない理由として「自分の症状に合った商品が分からないから」と答えた人が最も多く(39.2%)、その他「パッケージを見ても何に効くのか分からないから(21.2%)」、「商品名に難しい漢字が並びとつきにくいから(16.2%)」と漢方薬の「分かりにくさ」を理由に挙げる回答が目立ちました。また、「効果が疑わしいから」「即効性がないようだから」という漢方薬へのなじみの無さも伺えます。

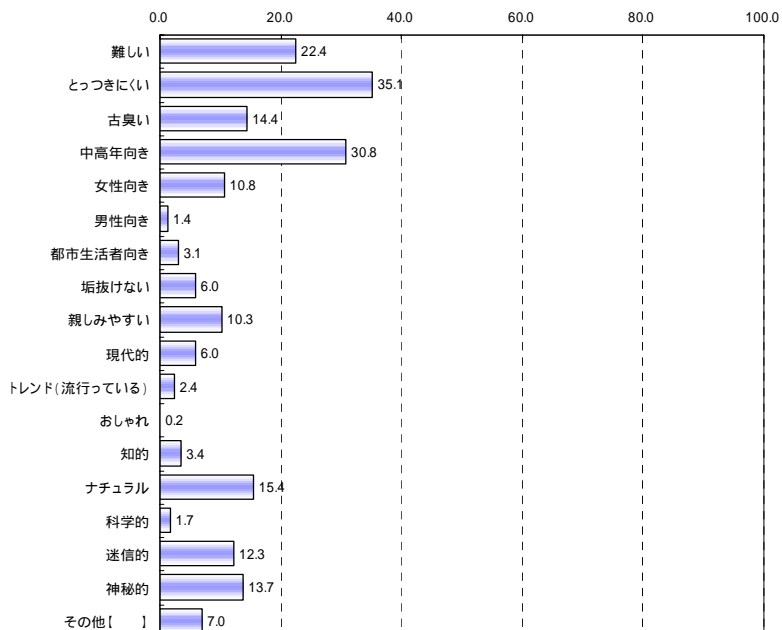
Q.薬局・ドラッグストアの漢方製剤を使ったことがない理由は何ですか？(複数回答可/n=260)



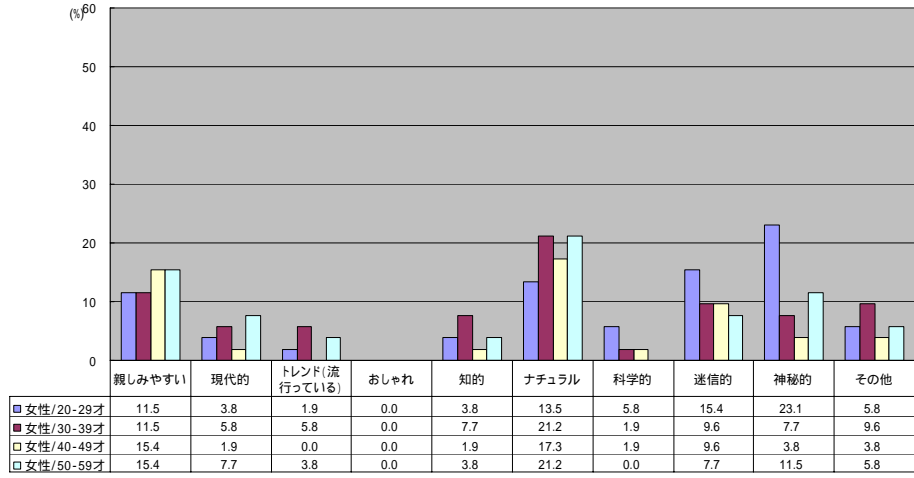
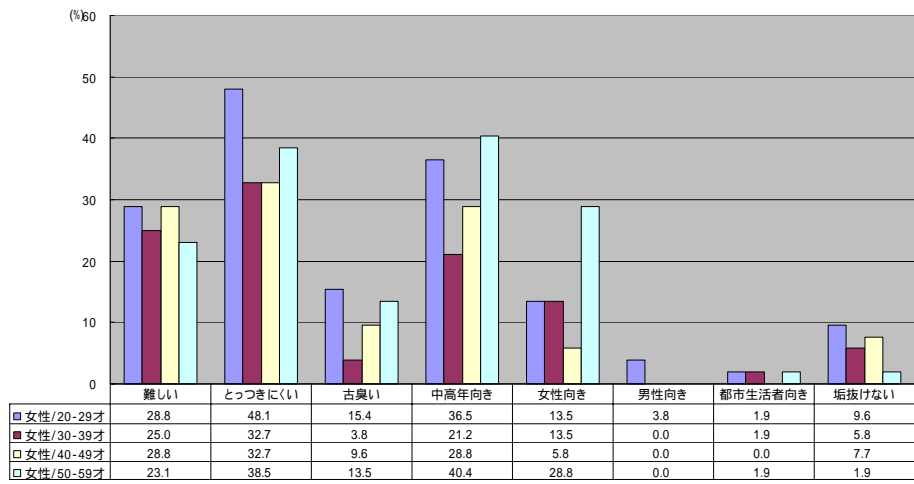
(7)漢方薬のイメージは「とつきにくい」、「中高年向き」、「難しい」

漢方薬のイメージは「とつきにくい」と答えた人が最も多く(35.1%)、次いで「中高年向き(30.8%)」、「難しい(22.4%)」という結果になりました。特に、20代女性の48.1%は「とつきにくい」と回答しており、漢方薬の手に取りにくいイメージが浮き彫りになりました。

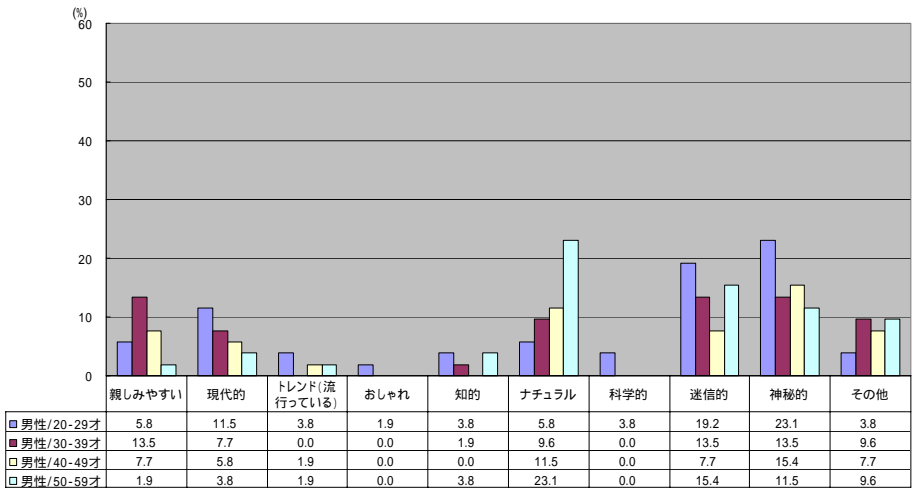
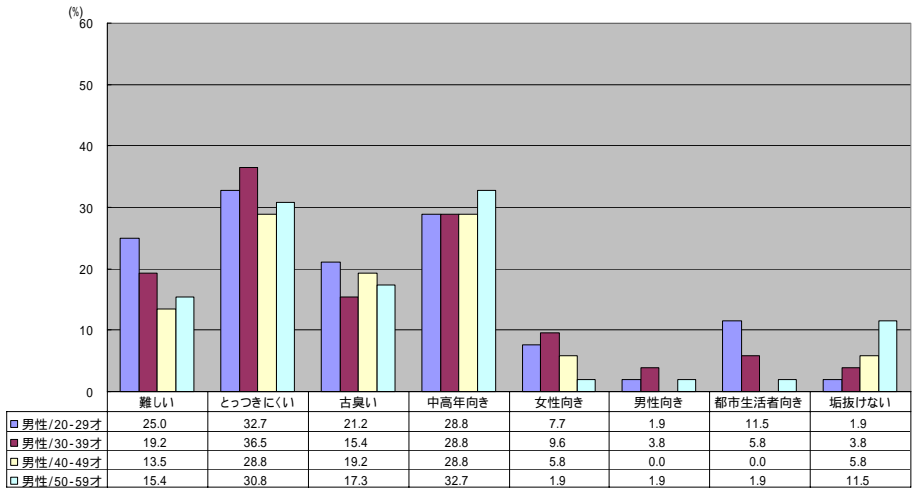
Q.薬局・ドラッグストアの漢方製剤について、あなたのイメージにあてはまるものを選んで下さい。(複数回答可/n=416)



# 女性



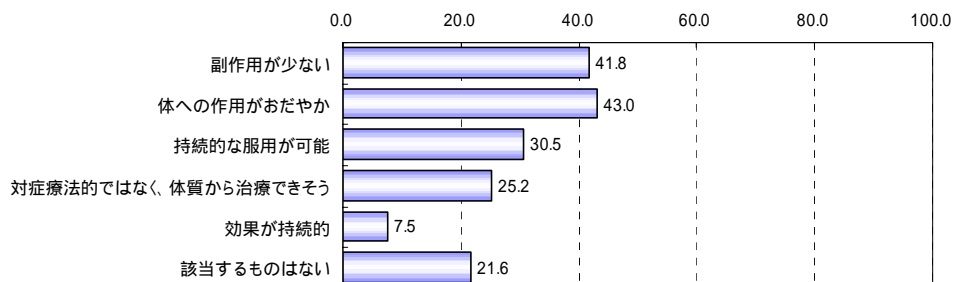
# 男性



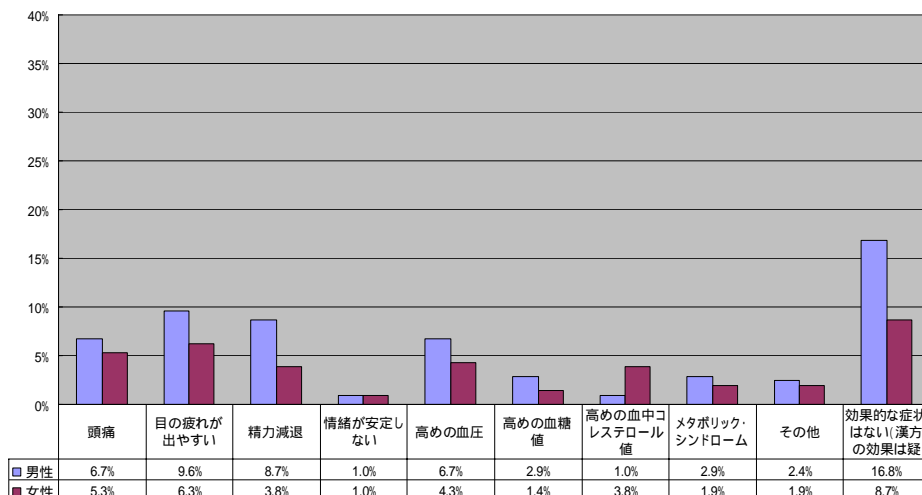
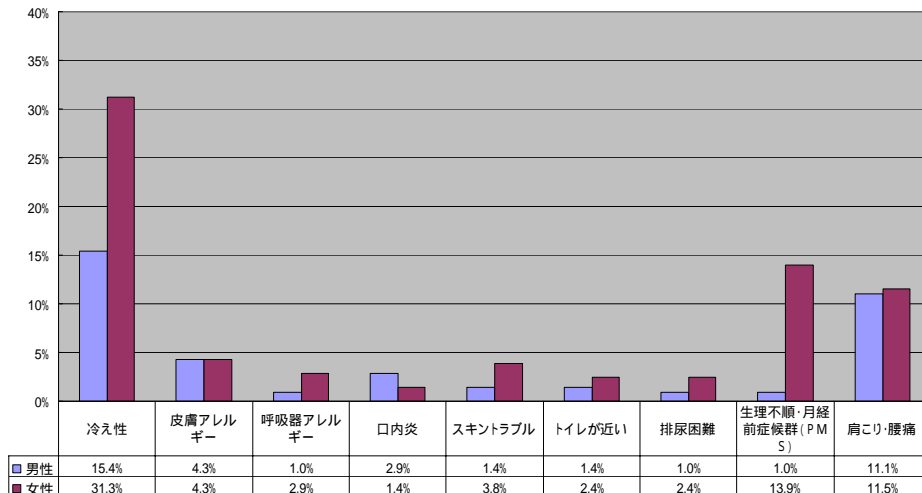
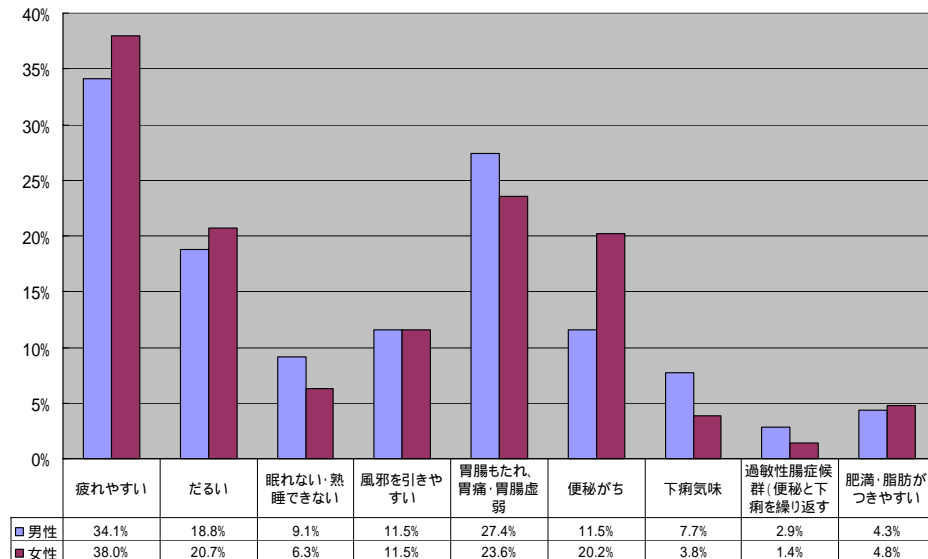
(8) 漢方薬の効果についてのイメージは「体への作用が穏やか」「副作用が少ない」など。「対処療法的ではなく、体質から治療できそう」という意見も25.2%。

漢方薬の効果に対するイメージでは、「体への作用が穏やか(43.0%)」、「副作用が少ない(41.8%)」など、植物のイメージなどからくるマイルドな効き目に対するイメージがありました。また、「対処療法的ではなく、体質から治療できそう(25.2%)」という意見も25.2%にのびりました。

Q. 薬局・ドラッグストアの漢方製剤の効果について、あなたの考えにあてはまるものを選んで下さい。  
(複数回答可/n=416)



(9) 漢方薬は「疲れ」に効果がありそう。次いで男性では「胃腸のトラブル」、女性は「冷え」。漢方薬が効果的と思われる体の不調は？との問いに対し、男女共通で「疲れやすい」という不調をあげた人が最も多く、次いで男性は「胃腸もたれ、胃痛・胃腸虚弱」、女性では「冷え」となりました。「肥満」や「風邪をひきやすい」、「スキントラブル」など慢性疾患にも漢方薬が効果的であることがまだ十分に伝わっていない現状が浮き彫りになりました。



## 【漢方薬について】

ロート製薬株式会社  
製品情報部 学術情報グループ マネージャー  
力石正子(薬剤師)

漢方薬には様々な効能があります。自分にあったものを選んで正しく使いましょう。

一般用漢方薬は肥満症や慢性湿疹など慢性疾患に対して、西洋医学とは異なるアプローチで効果を発揮します。西洋医学が原因を追究して対処する「点」の治療であるのに対して、東洋医学では症状の原因となっている体質に働きかけてバランスの乱れた体の機能を正常に戻し、もともと持っている治癒力を整えて回復へと導く「全体」の治療だからです。そのため、漢方薬には種々の生薬が組み合わせられて配合されています。

自分に合った漢方薬をしっかりと選んでいただくために、漢方薬の効能には「肥満症」や「便秘」のような病名だけでなく、「のもの次の諸症」のように自覚症状が反映されたものが記載されていますので、必ず読むようにしましょう。

漢方薬の効き目の出方はさまざまですが、症状に合った漢方薬であればしっかり効果を発揮します。しかし、やさしいイメージのある漢方薬と言っても効き目の反面、体に合わない場合はまれに副作用も起こりうるものです。自分の症状に合ったものを選び、用法・用量を守って正しくお使い下さい。

# 調査設計

調査方法 インターネットによるアンケート調査

調査目的 現代人の健康状態の実態を探り、体質改善意識や漢方薬に対する意識を探る

調査期間 2006年9月13日(水)～14日(木)

対象エリア:全国

地域	人数
北海道	16
東北地方	17
関東地方	196
中部地方	51
近畿地方	78
中国地方	21
四国地方	11
九州地方	26
全体	416

サンプル数 416名 (男女各208名、20～59才)

年齢	男性	女性
20-29才	52	52
30-39才	52	52
40-49才	52	52
50-59才	52	52
合計	208	208

調査分析 ロート製薬株式会社